とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1．活動のテーマ

<テーマ>

絵画

<テーマの設定理由>

当園では、子どもたちが課題にそって絵に自由に表現する時間を定期的に行っている。絵の技術的な指導ではなく、講師の先生の話を聞き、その話を頭の中で想像し、それを画用紙に自由に表現できるようにしている。年長組の卒園前には、４・５人のグループで一つのテーマを自分たちで決め、話し合いをし、グループで一つの作品（例えば、宇宙・遊園地・水族館等）を模造紙３枚分位の大きな模造紙に描いている。一つのことをテーマに作品を作ることで、他者の考えや自分の考えをすり合わせたり、協力すること・探求を深めることを行っている。

2．活動スケジュール

R7，4月～R8，3月　　毎月１回の活動　　（年少は９月～）

3．探究活動の実践

<活動の内容>

専任の講師による絵画の活動を行った。年少組では、最初の活動として、○△□の形を認識することから始め、その後は他の学年と同様に講師の先生の話を聞き、子どもたちは話しを聞きながら頭の中で想像したり、イメージを膨らませたり、今までの経験を思い起こしたりしながらそれを画用紙に自由に表現した。書き始めはサインペンで描き、それが終わると絵の具を使って仕上げていった。戸惑っている子に対しては、講師の先生や職員が声をかけ、一緒に考えたり想像したり、経験したことを思い起こしたりしながら活動を積み重ねていった。経験を積んでいく中から、自由に自分の創造した世界を絵に表現していけるように声掛けをしたり、一緒に考えたりしながら活動を進めていった。また、子どもたちは自由に表現することで、絵による表現力を深め

ていけるように進めた。

年長組の最後には３年間の仕上げとして共同制作を行った。４・５人のグループでグループごとにテーマを話し合って決め、ひとつのテーマに沿って大きな紙に絵で表現していった。テーマを決める際には、自分の考えと他者の考えをすり合わせていくことも経験した。サインペンで絵を描き始めるが、その際にも他者の意見を聞きながらどのような絵に仕上げていくのかを相談し協力しながら描いていった。仕上げの色塗りでも、色の使い方を相談するなど、この活動を通して、他者と気持ちと自分の気持ちを一つにすることや、協力すること・大きな紙に大きく表現することの楽しさ等様々なことを学んでいった。

＜毎月のテーマ＞

年少：　９月「お父さんとお母さん」　10月「家族」
　　11月「運動会」　12月「シャボン玉」
　　１月「スクラッチ」　２月「お遊戯会」
　　３月「魔法の箱」

年中：　４月「春の花」　５月「自転車に乗る僕・私」
　　６月「雨降り」　７月「乗り物」
　　９月「夏休みの思い出」　10月「お店屋さん」
　　11月「運動会　12月「おばけ魚」
　　１月「土の中の生き物たち」　２月「お遊戯会」
　　３月「楽しかった思い出」

年長：　４月「自分と春のお花」　５月「乗り物」
　　６月「雨降り」　７月「自転車に乗る僕・私」
　　９月「夏休みの思い出」　10月「自分が行きたい所」
　　11月「運動会」　12月「コラージュ」
　　１月「もし空をとべたら」　２月「共同制作」
　　３月「自分の行きたい所」

テーマ１：「動物園」
テーマ２：「遊園地」

※今年度の共同制作は,インフルエンザ感染者が多くいたため、２グループでの活動となった。



４．振り返り

絵画の時間を通して、子どもたちが話を聞いて想像したり考えたりしたことを「絵」に表現していく姿に子どもの力を感じた。年少の時から、この活動を積み重ねていくことで、想像する力や、表現する力が育って行くことを感じた。また、他者の作品を見て、他者の力を認めたり、そこから自分自身が発見をしたり、様々なことを学んでいる様子も見られ、子どもたちがそれぞれに興味・関心をもち、学び合いながら成長していると感じた。
年長組の共同制作では、テーマに沿った「絵」をグループで描くために、子どもたちが意見を交換したり、相談したり、またあらかじめ自ら表現したいことを絵本や、図鑑で調べたりする姿があり、子どもたちが興味・関心をもって活動の日を楽しみにし、参加していることに活動の意義を感じた。子どもたち自身がこの活動から、絵の上達以外に、協力すること等様々なことを経験し、心も成長していることを感じる事ができた。今年度は、インフルエンザの為にこの活動に参加できない子が多くいたが、テーマを決める段階から興味を持ちそれぞれが想像を膨らませて楽しみにしていたため、後日、再度その子たちの気持ちにこたえ、別の企画を立て、グループで絵を描く機会を設けた。